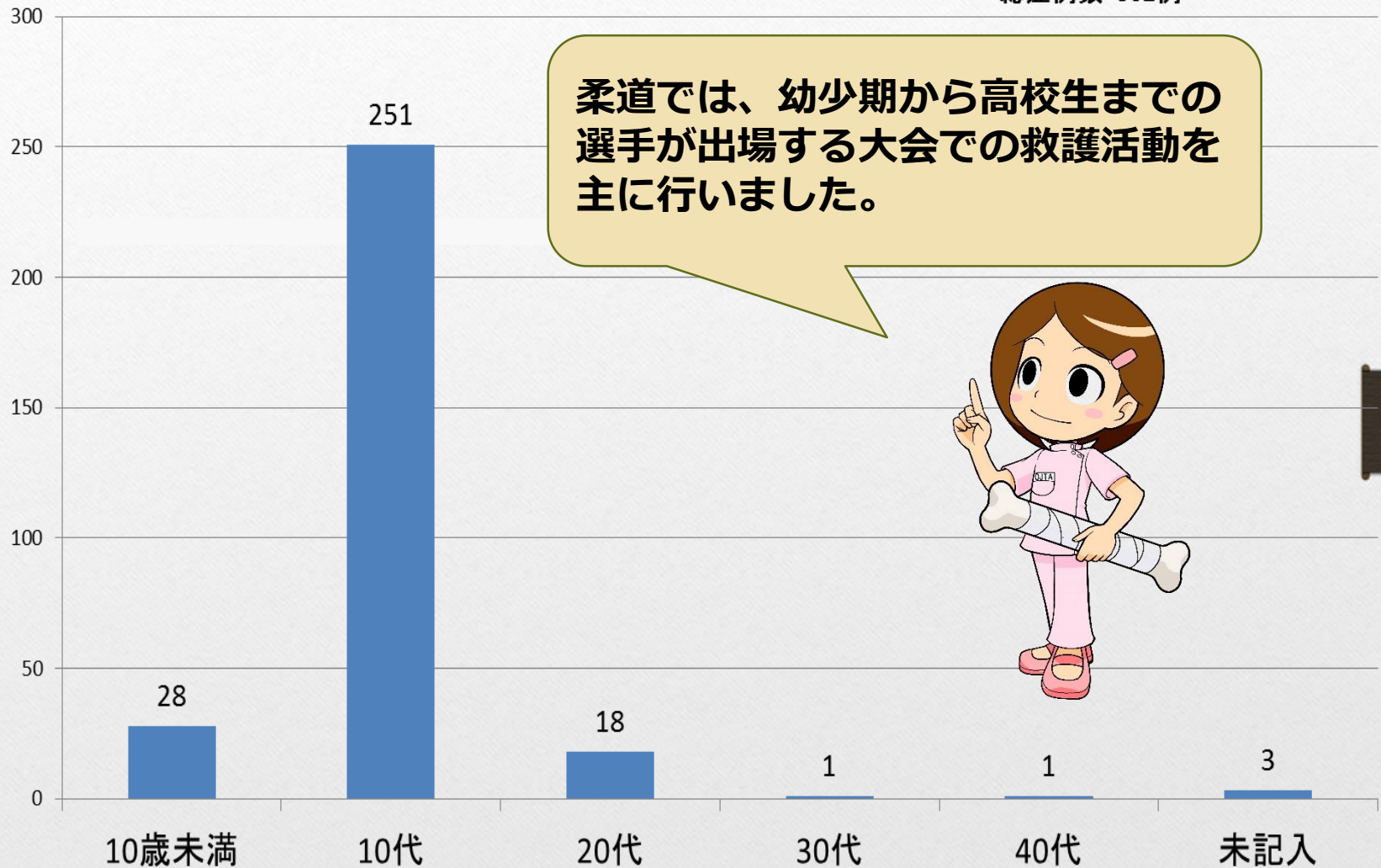


平成25年度 救護活動報告より

柔道・相撲で発生しやすい
ケガについて

柔道 年代

全52会場
総症例数 302例

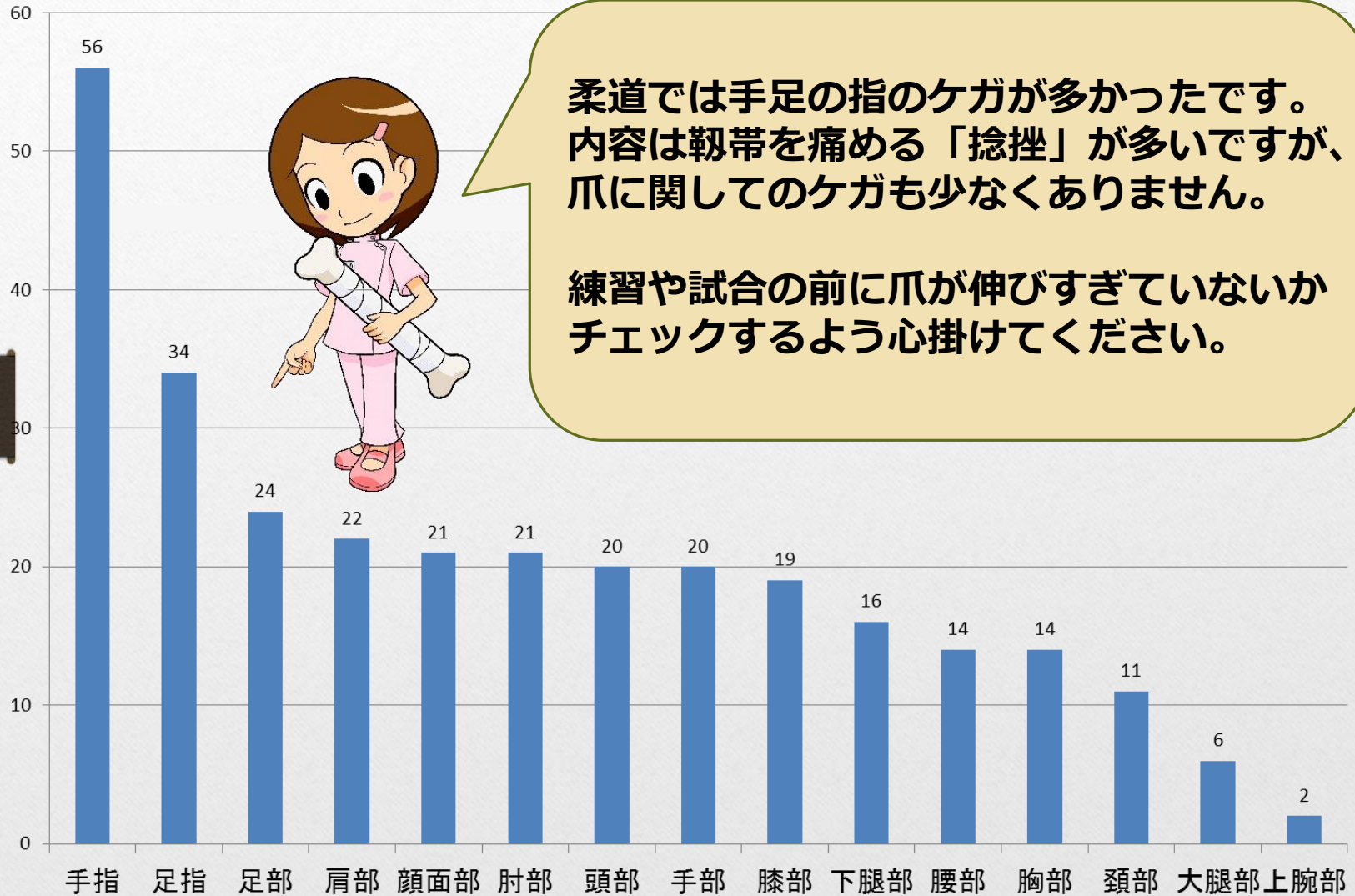


柔道では、幼少期から高校生までの選手が出場する大会での救護活動を主に行いました。



柔道 負傷部位

全52会場
総症例数 302例

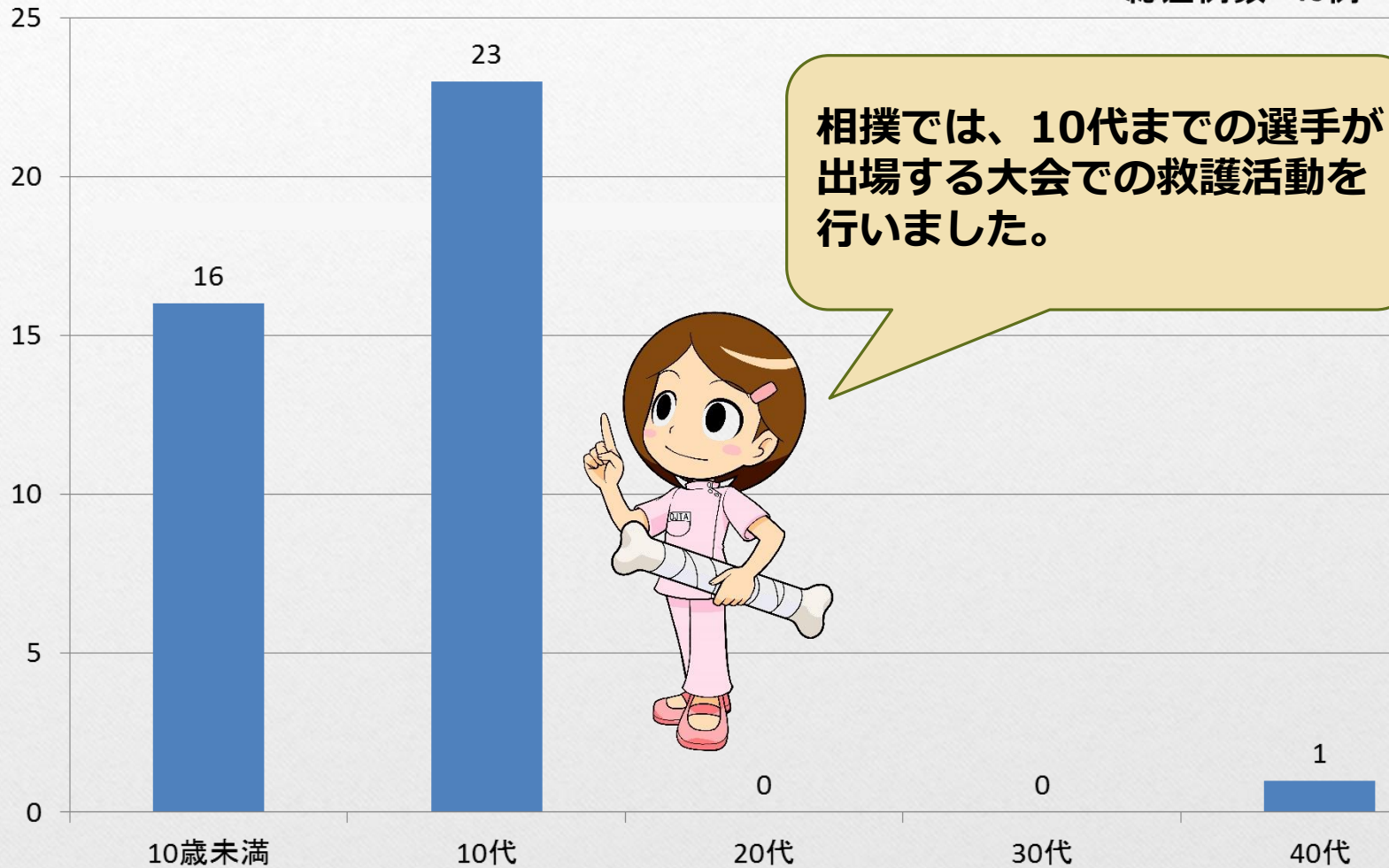


柔道では手足の指のケガが多かったです。
内容は靭帯を痛める「捻挫」が多いですが、
爪に関してのケガも少なくありません。

練習や試合の前に爪が伸びすぎていないか
チェックするよう心掛けてください。

相撲 年代

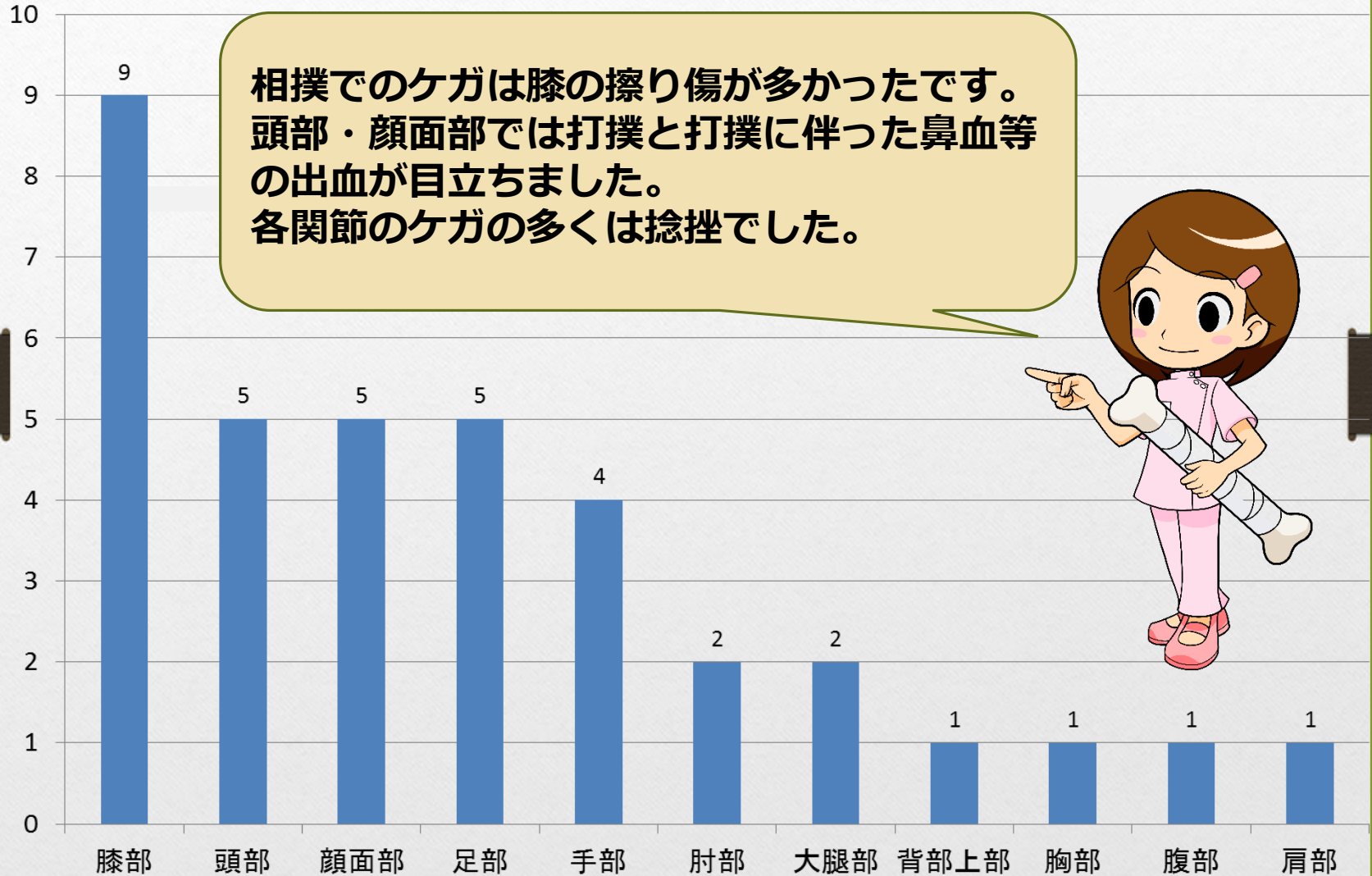
全5会場
総症例数 40例



相撲 負傷部位

全5会場
総症例数 40例

相撲でのケガは膝の擦り傷が多かったです。
頭部・顔面部では打撲と打撲に伴った鼻血等
の出血が目立ちました。
各関節のケガの多くは捻挫でした。





両競技とも主に大会参加をしている少年少女の選手の救護を行いました。ケガをしやすいコンタクトスポーツの中でも激しくぶつかる機会の多い競技ということもあり、打撲や捻挫での来所が多かったです。中でも、頭部や胸腹部への打撲、各部位の骨折・脱臼などは状況により専門的な知識や早急な判断が必要となる場合もあります。競技中のケガ、競技後に気分が悪くなる等の気になる症状があるときは、できるだけ早めに救護ブースへ来てくださいね。